

令和 2 年 5 月 25 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02454

研究課題名(和文)第三期役者評判記の有用性に関する総合的研究

研究課題名(英文)Comprehensive Research for the utility of Yakushahyobanki, the third term.

研究代表者

神楽岡 幼子 (KAGURAOKA, Yoko)

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：00277807

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は安永から享和期(1772～1804)の役者評判記の正確な本文テキストの作成、役者評判記の有用性の分析考証、文化情報として役者評判記を活用するためのシステム構築を目的としており、『歌舞伎評判記集成 第三期』第一巻～第三巻として安永2～10年に至る計33点の役者評判記の本文テキストおよび詳細な解題を公刊した。

また、研究成果をオンライン型文化資源として活用するため、役者評判記原本画像と本文テキストを連動させた全文閲覧システムならびに検索システムを構築した。加えてネット上の他のテキストを含むことが可能な簡易なテキスト検索を開発した。デジタル本文アノテーションシステムも継続的に開発している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ユネスコ無形文化遺産でもある歌舞伎の実態解明に効力を発揮するのが役者評判記である。歌舞伎の芸評書であり、歌舞伎の史的変遷や興行の実態を追うことができるなど、その効用は多岐にわたる。厳密な校訂作業を経た本文テキストの作成と役者評判記の有用性の解明により、役者評判記活用のための基盤を整備することができた。

「役者評判記総合情報書庫」が実用化すれば世界中に役者評判記の有用性が発信され、各分野の研究に寄与することも期待できる。役者評判記研究の成果は近世演劇のみならず、日本語、美術、文学、歴史などの研究にとって極めて有用である。情報人文学においても研究素材としてデジタルテキストが大いに活用されると思われる。

研究成果の概要(英文)：We aim to analyze the usability of Yakushahyobanki by creating the accurate transition which were published during 1772-1804, and develop an online system to utilize the information including in the Yakushahyobanki. During the term, we published three volumes of "The third collection of Kabukihyobanki" including thirty three titles. For developing the transcribed texts to online digital resources, we worked on three type of web database. One is the system to make linkage between an original book page and the transcribed text. The second system is simple search for full texts. The third one is now continuously developing to utilize an annotation system of this kind of text digital archives.

研究分野：日本近世文学・日本近世演劇

キーワード：役者評判記 劇評 歌舞伎 翻字本文 安永天明寛政享和 専門語彙索引 デジタルアーカイブ 江戸文化

## 1. 研究開始当初の背景

世界無形文化遺産のひとつでもある歌舞伎は日本文化として海外からの注目度も高い。江戸時代に創始され現在にいたるまで引き継がれてきた伝統の実態を解明することは、歌舞伎研究者の責務である。その際に効力を発揮するのが役者評判記である。役者評判記は江戸時代の歌舞伎劇評であり、歌舞伎役者の芸を評判する定期刊行物である。17世紀半ばから明治期にいたるまで継続的に毎年刊行され続けた稀有な資料であり、これにより歌舞伎の史の変遷をうかがうことが可能となる。また、役者評判記は歌舞伎の演技や役者の動向、興行の実態などを追うことができるなど、その効用は多岐にわたる。役者評判記は近世演劇研究のためには必須の基本資料なのである。さらには、戯作や俳諧等の近世文学との関連や浮世絵や絵本等の近世絵画との関連についても、種々の情報提供が期待される資料である。

そのために学界を挙げて『歌舞伎評判記集成』第一期・第二期の刊行に取り組み、第三期の刊行へと事業が引き継がれてきた。実に五十年になろうとする演劇研究の一大事業である。『歌舞伎評判記集成』は世界中に現存する役者評判記を網羅的に調査し、厳密な校訂のもとに翻字し、最も信頼し得る正確な本文と書誌情報を提供しようとしたものであり、日本文学と日本語学、さらには演劇学の研究者のコラボレーションにより実現したものである。

その実現にあたっては、「役者評判記研究会」が組織され遂行されてきたが、現在進行している第三期の企画は「第三期役者評判記研究会」がこれまでの成果および方法と指針を引き継ぎ、『歌舞伎評判記集成 第三期』全十一巻の出版を目指し活動している。

「第三期役者評判記研究会」においては、これまでの学際型研究の特徴は保持しつつ、新しい技術を導入して研究活動に取り組んで来たが、すでに科学研究費補助金を三度取得し、これまでに第三期役者評判記の網羅的書誌調査を実施、パーソナル・コンピュータによるデジタル翻字凡例・方法の標準化およびそれに基づく第三期役者評判記の正確な翻字本文のデジタルデータ化、WEB版第三期役者評判記による役者移動索引の公開等の成果をあげてきた。

第三期が対象とする安永から享和期(1772-1804)は江戸文学・江戸文化を考えるうえでも重要な時代である。すなわち、浮世絵の世界で東洲斎写楽が世に出たのがこの時代であり、東洲斎写楽の役者絵の分析のためには役者評判記は必須の資料である。写楽に限ったことではなく、初期の鳥居派から勝川派、歌川派へと役者絵界の中心となる流派が変遷していく時期にもあたる。第三期役者評判記は浮世絵研究に欠くことができず、浮世絵研究が盛んな欧米諸国においても歓迎されるべき研究となるであろう。また、江戸文化が花開いた第三期にあって、江戸戯作に与えた歌舞伎の影響、あるいは、上田秋成や与謝蕪村等、上方文芸界にみる歌舞伎との関連を考えると、役者評判記は歌舞伎研究のみならず、江戸文芸のすべての研究に対し有益な情報を提供するものであり、その意義は大きい。

## 2. 研究の目的

本研究では『歌舞伎評判記集成 第三期』の対象となる役者評判記について、用字の問題、諸本異同の問題等、役者評判記の諸問題を分析すること、ならびに江戸文化を理解する上で、文化情報として役者評判記をどのように活用するかという情報活用のあり方を提示する。蓄積された正確な翻字本文を材料に的確に情報を引き出すためのシステムも構築しつつ、それを利用することで新たな研究成果の事例を生み出すことを目的とする。

役者評判記の研究は『歌舞伎評判記集成 第三期』として正確な翻字本文の刊行準備を整えるにいったが、次に求められる課題は、正確な翻字本文に基づく、役者評判記の用字や用語等、役者評判記自体の問題点の分析である。また、役者評判記を活用するためには本文解釈を深め、役者評判記の実効性を検証していくことも必要となる。さらには、役者評判記諸本の精細な書誌調査を推し進め、さらなる厳密な諸本間の異同調査とその問題点の分析も重要な課題である。役者評判記そのものの研究をさらに深めることが必要な段階に入ったと言ってよい。

すなわち、今回の研究期間においては第三期役者評判記を対象とするが、これまでの研究活動の中から蓄積されてきた次の三点が大きな課題となる。

役者評判記の用語と用字の問題分析

役者評判記の諸本に関わる問題分析

役者評判記の活用に関わる基礎研究

それぞれに検証すべき事例が収集されつつあるが、第三期役者評判記全体を見渡した事例収集を行い、役者評判記の有用性の裏付けをしようとするものである。

また、本研究では、正確な翻字本文を基盤情報としてすでに持っていることが極めて高いアドバンテージである。本文は、研究分担者(赤間)が所属する立命館大学アート・リサーチセンターが開発する電子テキストアーカイブシステムに搭載し、WEB上での本文検索、アノテーションの蓄積、テキストマイニングを行うことで、これまでの役者評判記の研究手法そのものを根底から革新する研究環境を開発し、次世代の研究者がさらなる有効利用を実現できるように研究資源としての可能性を高めることも重要な課題である。これらの成果物が公開されれば、国内の研究者はもちろん、海外の研究者にも大きな価値となり、期待されることは大きい。

本研究では、「役者評判記総合情報書庫」をオンライン上に構築し、研究成果を広く公開することも課題である。第一期、第二期の『歌舞伎評判記集成』には、詳細な役者名・興行人名・その他演劇関係者名・外題・芸能用語についての索引があるが、オンラインのデジタル・アーカイブにより、多様な検索と、情報蓄積が可能となる。これを本研究では、「役者評判記総合情報書庫」と呼び、完成を目指す。具体的には本文データを用いて、外部の画像や文献との連携検索、本文へのアノテーション蓄積など、本文に対してより有用な情報を追加することにより、原典以上の情報量、質の向上を図るものである。

### 3. 研究の方法

本研究は(1)役者評判記の有用性に関する研究と(2)役者評判記総合情報書庫の構築の二本柱を立て、(1)については、研究代表者神楽岡の所属する愛媛大学に拠点を置いて進め、(2)については、研究分担者赤間が所属し、デジタル環境やサーバ管理の人材等について最適の環境をもつ立命館大学アート・リサーチセンター(ARC)を拠点として進めた。およそ120点という大部の役者評判記をその対象とするため、「第三期役者評判記研究会」会員すべてを科研メンバーとしてより効率的に作業を進める体制を整えた。

本研究の研究体制は以下の通りである。

#### 第三期役者評判記研究会

- 〔研究代表者〕神楽岡 幼子(愛媛大学教授)
- 〔研究分担者〕赤間 亮(立命館大学教授)
- 〔同上〕黒石 陽子(東京学芸大学教授)
- 〔同上〕野口 隆(大阪学院大学准教授)
- 〔同上〕水田 かや乃(園田学園女子大学近松研究所教授)
- 〔連携研究者〕金子 貴昭(立命館大学衣笠総合研究機構准教授)
- 〔同上〕倉橋 正恵(立命館大学衣笠総合研究機構客員研究員)
- 〔同上〕齊藤 千恵(園田学園女子大学近松研究所客員研究員)
- 〔研究協力者〕新井 恵(愛媛大学大学院生)
- 〔同上〕池山 晃(大東文化大学教授)
- 〔同上〕佐藤 かつら(青山学院大学教授)
- 〔同上〕田草川 みずき(千葉大学准教授)
- 〔同上〕光延 真哉(東京女子大学准教授)
- 〔同上〕武井 協三(国文学研究資料館名誉教授) 研究会顧問
- 〔同上〕土田 衛(大阪女子大学名誉教授) 研究会顧問
- 〔同上〕鳥越 文蔵(早稲田大学名誉教授) 研究会顧問
- 〔同上〕原 道生(明治大学名誉教授) 研究会顧問

なお、顧問は俯瞰的立場から、(1)(2)の両研究に対して、適宜、助言を与える。水田かや乃は所属機関退職にともなう資格喪失により研究分担者から削除し、2019年度以降は研究協力者とした。齊藤千恵は早稲田大学演劇博物館招聘研究員へ身分変更があったため、2019年度以降は連携研究者から変更して、研究協力者とした。

#### (1)役者評判記の有用性に関する研究

役者評判記の用語と用字の問題分析、役者評判記の諸本に関わる問題分析、役者評判記の活用に関わる基礎研究の三つの視点から課題の事例収集および解決にあたった。

#### (2)役者評判記総合情報書庫の構築

本研究では、役者評判記の正確な翻字本文が作成されることになる。デジタル時代において「くずし字」で記録された古文書の翻字本文がどのように活用されるべきなのかを問う、挑戦的な研究である。従来、電子テキスト化される場合、検索が容易になる、データ交換が簡易になる、修正が容易になる、という3点のメリットが指摘されてきていた。本研究では、さらに電子テキストが文化資源として、具体的に付加価値を生んでいくという新たなデジタルヒューマニティーズ型研究を追求する。本研究では以下の4点について重点的に研究を進める。

##### 役者評判記本文の全文検索システムへの搭載

電子テキストと原本画像、電子テキストと翻字印刷物とを連携させることにより生れる効果を追求する。原本画像閲覧システム、翻字冊子閲覧システムと電子テキストが連動することで、原本・冊子両方へのダイレクトなアクセスを可能とする。

##### アノテーションシステムの構築・語彙データベース蓄積システムの構築

電子テキストを読解していきながら、アノテーション(注釈)を付与するのは、人文系研究者の研究の中心的な営みであり、それをストレスなく行える電子テキストビューアーが必要となる。

##### 挿絵画像と歌舞伎の他文献との連携

電子テキストとともに、原本画像が検索できるようになるため、舞台面を描いた挿絵の検索を可能とする。

オンラインテキストマイニングシステムの導入

データベースは、歌舞伎研究だけでなく、言語・風俗・美術・歴史等の分野からの利用を促すため、オンライン型のテキストマイニングシステムを開発・導入し、活用実験を行う。

#### 4. 研究成果

##### (1) 役者評判記の有用性に関する研究

役者評判記の用語と用字の問題分析、役者評判記の諸本に関わる問題分析、役者評判記の活用に関わる基礎研究の三つの視点から課題の事例収集および解決に取り組んで来たが、その成果は下記の通りである。

役者評判記の用語と用字の問題分析

種々の事例収集を行い、諸問題について分析・検討を重ね、役者評判記本文テキストの精度をあげることができたことが第一の成果である。成果物として、厳密な校訂作業を経て、『歌舞伎評判記集成 第三期』第一巻から第三巻を公刊し、安永2年から安永10年にいたる計33点の役者評判記本文の正確なテキストを提供することができた。また、分析・検討された諸問題については、『歌舞伎評判記集成 第三期』第二巻および第三巻「月報」に野口隆「翻字の諸問題 その一」、「翻字の諸問題 その二」として順次、公表している。

役者評判記の諸本に関わる問題分析

第三期役者評判記研究会によって徹底的に行った諸本調査に基づく諸本異同の実態、過去に刊行された役者評判記からの流用等の諸問題について新知見を含む成果を得て、『歌舞伎評判記集成 第三期』第一巻から第三巻「解題」として報告できた。齊藤千恵「『名取草』とその周辺 本清版の劇書と役者評判記」では、特殊な出版事情の分析を通して、役者評判記出版の実態を掘り下げることができた。また、資料収集を心がけた結果、新出諸本を確認することができ、さらには、これまで所在が確かめられていなかった新出役者評判記を発見し、第三巻までに2点を収録することもできた。

役者評判記の活用に関わる基礎研究

齊藤千恵「『歌舞伎評判記集成 第三期』翻字作業におけるデジタルデータ活用」において、本文テキストをデジタルデータとして位置づけたときの活用の実際と可能性について論じた。また、水田かや乃企画「役者評判記展」において、広く一般に役者評判記の有用性を紹介すると同時に、書肆八文字屋の問題分析や一枚摺役者評判記、役者評判絵といった隣接するジャンルの演劇資料との関連に関する問題提起を行った。

( 成果物の詳細は「5. 主な発表論文等」の項参照)

なお、上記 から の研究成果を反映させた、精度の高い校訂本文と厳密な諸本調査にもとづく解題は『歌舞伎評判記集成 第三期』として、2018年にその第一巻、2019年に第二巻、2020年に第三巻を、研究成果公開促進費を得て和泉書院より公刊した。

##### (2) 役者評判記総合情報書庫の構築

役者評判記本文の全文検索システムへの搭載

全文検索システムとしては、3パターンのシステムを作成した。( )単純な全文検索・スニペット表示システム、( ) に触れる電子テキストアーカイブシステム、( )ARC 古典籍ポータルデータベースの翻字システムに付属するテキストアーカイブシステムである。

( )は、プレーンなテキストを検索語で検索するもので、たとえば同じ人名であっても漢字や仮名に違いがあれば、検索できない。テキストのファイル名がメタデータのため、詳細な絞り込みができないが、出現頻度の少ない用語・名称などには、とくにタグ付けをする必要がなく検索される可能性がある点で効果的である。( )は、次項で触れる。( )は、ARC 古典籍ポータルデータベースが持つ翻字アーカイブシステムが、くずし字 AI 解読システムを導入することで、大幅なバージョンアップを行い、同時に検索機能・テキスト表示機能を強化した。このシステムの利点は、画像に対して翻字本文が対応することであり、このシステムを使って、電子テキストと原本画像とが連動することになった。

なお、AI の導入により翻字システムが圧倒的なパワーを獲得したため、第四期以降の翻字プロジェクトを行う場合、現状のような作業方法とは違った方法によって、時間と費用を節約できる可能性が広がってきた。

アナレーションシステムの構築・語彙データベース蓄積システムの構築

本システムは、期間中に完成しなかったが、全文テキストを登録すると、アノテーションの記入が可能なタグ付けがきわめて効率良くできるシステムであり、かつテキスト本文の変更があっても、語彙に付与されたタグは維持されるという仕組みである。電子テキストを読み進めながら、必要に応じてタグを付与し、そのタグには、キーワード、統一語、外部リンク等が設置できる。ARC のイメージデータベース群には、「UserMemo」という高速タグ付け機能があるが、これを電子テキスト上で行うものである。

テキストを「読む」行為は人文学の基本であり、読む営みとシステムが連動することによる効果は、計り知れないものがあると予想しているが、本研究期間中の実用化ができなかったことは悔やまれる。

タグ付けは、そのまま索引作成作業となるものであり、本研究の成果物として出版している『歌舞伎評判記集成 第三期』の索引作成は、本システムによって完成させていきたい。

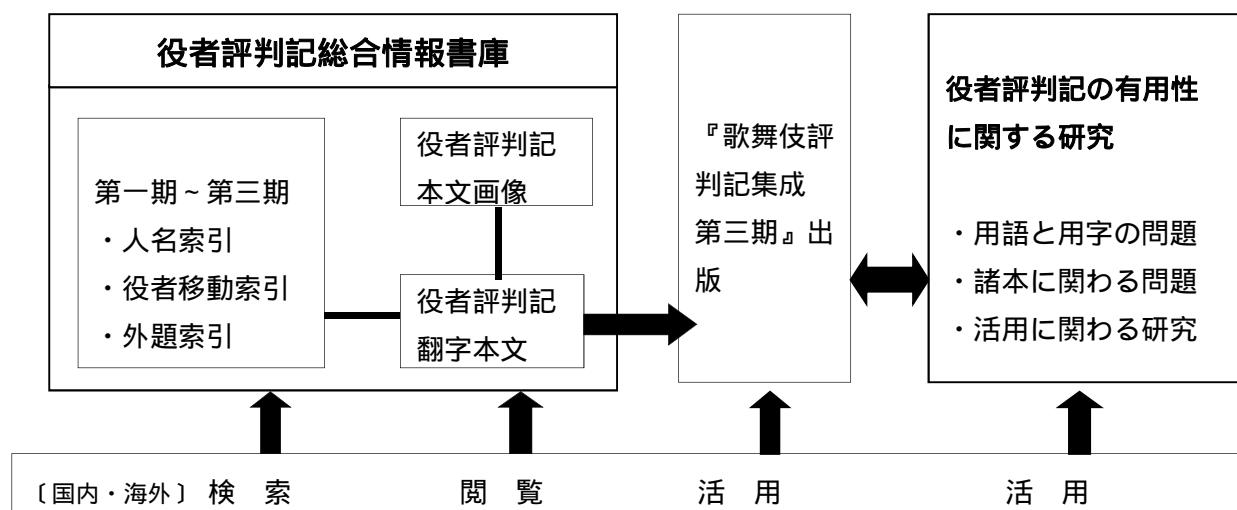
#### 挿絵画像と歌舞伎の他文献との連携

役者評判記には豊富な挿絵が描かれている。役者評判記の挿絵を歌舞伎演出研究や役者絵研究に生かす試みはすでに行われているが、番付や役者絵等も含めて、即座に比較できるオンライン環境が整うことで、これまで考えていなかった研究環境が生まれると思われる。本研究では、ARC の浮世絵・古典籍・番付それぞれのポータルデータベースを連携させて、「日本芸能・演劇演目上演データベース」を媒介データベースとして、連携させるシステムを構築した。

昨今の AI による画像マッチング能力も急激に伸びており、役者評判記挿絵から切り出された画像による文献資料の検索も可能となるはずである。現在、ARC 古典籍ポータルデータベースには、「同図検索」システムを開発・追加した。このシステムにより、将来的な可能性がある程度体験できる。

#### オンラインテキストマイニングシステムの導入

歌舞伎は、江戸時代における大衆文化の中心にあったものであり、それをテキストで詳細に記録した役者評判記は、歌舞伎研究だけでなく、言語・風俗・美術・歴史等の分野にとっても必要な情報が詰まっている。より効果的な他分野からの利用を促すため、テキストマイニングシステムの開発導入を予定していたが、予想していた近世期の言語を対象とする形態分析素は出現せず開発は遅れた。したがって、活用実験を行うまでになっていない。国立国語研究所等、言語学者の奮起を期待したい。



## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 野口 隆	4. 巻 7
2. 論文標題 『俳優楽室通』解題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 頼原文庫選集(7) 戯作・漢籍I	6. 最初と最後の頁 612-618
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤 千恵	4. 巻 28
2. 論文標題 『名取草』とその周辺 - 本清版の劇書と役者評判記 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 近松研究所紀要	6. 最初と最後の頁 13-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 光延 真哉	4. 巻 95-8
2. 論文標題 丹前の継承 続・舞台に立つ太夫元	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 51-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒石 陽子	4. 巻 3
2. 論文標題 近世演劇と『太平記』 『仮名手本忠臣蔵』成立まで	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 軍記物語講座 第3巻 平和の世は来るか 太平記	6. 最初と最後の頁 207-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤 千恵	4. 巻 62
2. 論文標題 『歌舞伎評判記集成 第三期』翻字作業におけるデジタルデータ活用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歌舞伎 研究と批評	6. 最初と最後の頁 35-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野口 隆	4. 巻 2
2. 論文標題 翻字の諸問題 その一	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歌舞伎評判記集成 第三期 第二巻 - 自安永五年 至安永七年 月報	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野口 隆	4. 巻 3
2. 論文標題 翻字の諸問題 その二	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歌舞伎評判記集成 第三期 第三巻 - 自安永七年 至安永十年 月報	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 光延 真哉	4. 巻 116
2. 論文標題 羽左衛門の拍子事 続々・舞台に立つ太夫元	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京女子大学日本文学	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計3件

1. 著者名 役者評判記刊行会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 476
3. 書名 歌舞伎評判記集成 第三期 第一巻 - 自安永二年 至安永四年	

1. 著者名 役者評判記刊行会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 504
3. 書名 歌舞伎評判記集成 第三期 第二巻 - 自安永五年 至安永七年	

1. 著者名 役者評判記刊行会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 456
3. 書名 歌舞伎評判記集成 第三期 第三巻 - 自安永七年 至安永十年	

〔産業財産権〕

〔その他〕

水田かや乃企画「役者評判記展」（前期「八文字屋本の成立とその特徴」2018年5月27日～8月19日、後期「冊子体役者評判記から一枚摺役者評判記、役者評判絵へ」2018年10月20日～2019年1月31日、於園田学園女子大学近松研究所）を開催した。
---



## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	赤間 亮 (AKAMA Ryo) (70212412)	立命館大学・文学部・教授  (34315)	
研究分担者	黒石 陽子 (KUROISHI Yoko) (40247268)	東京学芸大学・教育学部・教授  (12604)	
研究分担者	野口 隆 (NOGUCHI Takashi) (50288742)	大阪学院大学・経済学部・准教授  (34403)	
研究分担者	水田 かや乃 (MIZUTA Kayano) (40209755)	園田学園女子大学・近松研究所・教授  (34516)	所属機関退職にともなう資格喪失により2019年度以降は研究協力者
研究協力者	新井 恵 (ARAI Megumi)		
研究協力者	池山 晃 (IKEYAMA Aki ra)		
研究協力者	佐藤 かつら (SATO Katsura)		
研究協力者	田草川 みずき (TAKUSAGAWA Mizuki)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	光延 真哉  (MITSUNOBU Sinya)		
研究協力者	武井 協三  (TAKEI Kyozo)		
研究協力者	土田 衛  (TSUCHIDA Mamoru)		
研究協力者	鳥越 文蔵  (TORIGOE Bunzo)		
研究協力者	原 道生  (HARA Michio)		
連携研究者	金子 貴昭  (KANEKO Takaaki)  (20411150)	立命館大学・衣笠総合研究機構・准教授   (34315)	
連携研究者	倉橋 正恵  (KURAHASHI Masae)  (90425017)	立命館大学・衣笠総合研究機構・客員研究員   (34315)	
連携研究者	齊藤 千恵  (SAITO Chie)  (00368010)	園田学園女子大学・近松研究所・客員研究員   (34516)	早稲田大学演劇博物館招聘研究員へ身分変更があったため2019年度以降は研究協力者